

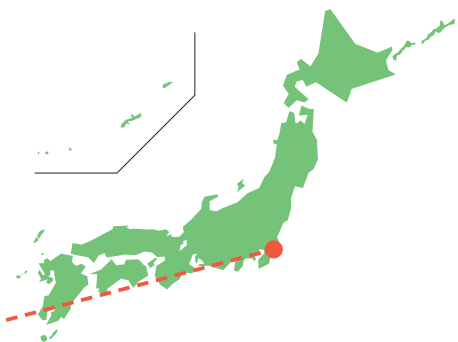
写真で見る

都市の変遷

今と昔の風景

地域の発展や変化にあわせて
移り変わってきたまちの姿。
今と昔を写真とともに振り返ります。

あさひ
旭市(千葉県)



令和
6年
(2024年)



左:生涯活躍のまち
「みらいあさひ」
右:病院



企画政策課
ただゆうすけ
多田勇介さん

病院中心のまちづくりで健康寿命の延伸

国保旭中央病院は、昭和28年に設立された自治体病院です。設立時と現在の規模を比較すると、人口(万人)4.0→6.3、病床数113→989、診療科数4→40、延床面積(m²)1,348→17万4,922と人口の増加を超える成長を遂げ、現在では診療圏人口90万人の中核病院として機能しています。

隣接する道の駅を含め、病院を核とした官民連携によるまちづくり(生涯活躍のまち)を展開しています。また、産官学による糖尿病の発症・重症化予防の取り組みを行い、健康増進を目指しています。



昭和
48年
(1973年)

開院20年経過時の
病院周辺